
帰り道

美羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰り道

【Zコード】

Z8330F

【作者名】

美羅

【あらすじ】

今日から中学1年生の本条優衣は、5年生の時転校してきた雨宮輝のことが好き。でも輝の双子の弟、雨宮陽が現れて、優衣の心はパニック状態。そんな3人が繰り広げるちょっとぴり切ない物語。

第一話　思いがけない出会い

私の人生は、笑つたり、泣いたり、遊んだり、・・・
ときには、友達と喧嘩をしたり、・・・
彼氏も出来たらいいなあ、・・・。なんて、幸せなことばかり、思つ
ていた。

でも、現実は全然違つた。
つらくて、悲しいことばかりだつた。

4月

「優衣、おっはよ～！」

「あっ！..千香、おはよ～。」

あたしの名前は、ほんじょうか本条優衣。

今日から中学1年生の元気な女の子 笑”

「優衣、また背伸びたあ～？？小6の時よりなんか、違う～！！」

あたしと話してるのは、親友の もりかわちか森川千香子。

小学5年生からの付き合いだから、まだ、付き合いは短いが、あたしにとつて、大切な親友だ。

天パでクルクルの髪の毛に、大きなパツチリとした瞳が印象的な女
の子。

「そりやあ、背だつて伸びるよ～。小6のままだつたら、逆に怖い
し！..」

「あはは。そりや、そうか！..」

、、、ちなみに千香は、ちょっと天然。

私が、遊び半分で言つた『天然危険物』というあだ名が今じやあ、
すっかりみんなに定着しちゃつてるんだよねえ、・・・。

でも、本人は、あんまり気にしてないけどね。

「優衣～、クラス表見に行こ～！～！」

「OK！～ってか、同じクラスだといいね～。」

「絶対、同じクラスだよ！～ってか、同じクラスじゃなかつたら、先生を脅して同じクラスにしてもらひつー！」

・・・・千香、それは、無理でしょ。

大体、今更クラス変えられないでしょ。

なんて思つても、千香には言わないけど。

「よ～し！～優衣！～クラス表が貼つてあるところまで、競争しそつ！～」

、、、、こきなり千香は何を言つてゐの？？

「いいよお～！～！」

つて、まあ、私もOKしちゃつてるけど。

「それじゃあ、位置について、よお～い、どんづ～！～！」

千香の合図で、私は走り出した。

全力疾走で、走つてる私は、子供っぽいとは、思つ。

でも、楽しいんだから、仕方ないよね。

それに、千香は、足速いから、全力疾走しなくつや、負けちやうし

！～

まあ、全力疾走しても、負けちやうんだけどね。

その前に、追いつかないし！～

もちろん、私が遅いんじゃないよ！～。

千香が、速すぎるだけで！～

結局、私が着いた時には、もう千香は着いていて。
ま、当たり前だよね。

千香は学年で女子の中じゃ一番速いし。

「優衣、遅い～！～！」

・・・・なんて言われても、ねえ？

「あつ！～そうやつ、もつクラス見といたよ。
えつ～？もつ～？

「で、どうだつた？」

私は、千香に聞いた。

「えっとねえ～…………もー、同じクラスだつたよ

おじいちゃん

「マジー？ やつた～！？」

そう言って、私達は抱き合って、ぴょんぴょん飛び跳ねた。

周りから見れば
めでたせや夢な人だよね

5分くらいして、私達は、せ

ある人の名前を深く。

「なになに～？もしかして、輝君の名前でも、探してるう～？？」

卷之二

ち、千番つて、以外に感するどいなあ。

わざわざ探してゐる人は、雨宮輝のことだ。
う先生の時、同じフランダーリングで、つむじの子をばんである。

輝は、5年生の時に転校して来た。

最初は正直言つて、苦手なタイプだつた。

話すのが、どんどん輝に惹かれていた。

やくちゃカツコイんだ！！

「残念ながら、輝君は、他のクラスだつたよ。」

な
ん
だ。
そ
う
な
の
か。

この年間は、かどやが、脚本の二機

決まる。

早くクラス替えしないかなあー、ー、ーなんて、早速思つてみたり

（笑）

「千齋は、寺の廻づからぬでたの??」

「千香は、陸と同じクラスになれたの？？」

千香には、5年生の時から恋をしている人が居る。

それが、陸。

本名、坂本陸。

陸は、サッカーをやってて、見た目も、ちょっとカッコイイ。だから、女子にも大人気。

「ん。同じクラスだつた。」

「、、、なんて、顔を赤くしながら言つ千香。

本当、可愛いねえ。

「じゃあ、千香、今年頑張らないと……今もかなりいい感じじゃん？」

千香は、サッカーが好きで、よく地元のサッカークラブに行つていた。

その時、陸に出会つたんだつて。

陸に一眼ぼれした千香は、それから毎回サッカーの練習がある度にサッカーグラウンドへ足を運んでいる。

本当、単純というか素直というか、・・・。

でも、やつぱり、そんな二人は、すこくお似合いだ。

早く付き合えばいいのに、・・・。なんて、私はいつも言つている。
「ええ～！！頑張るつて、具体的に何をすればいいのぉ～？？」
「ん～、～、～、取りあえず、告れ。」

私は、命令口調で言つた。

「上から田線？？？・・・まあ、いいけど。つて、その前に、告ると
か無理無理無理！！！」

「何でえ～？？絶対両想いなのに、・・・。」

「そんなことないよお～。絶対片思いだも～ん」

そんなことを話していると、『キーンコーンカーンコーン』とチャイムが鳴つた。

「やばつ～！」

もう、そんなに時間経つた！？

初日から遅刻なんて、恥ずかしすぎ～！～

「千香、走るつ！！」

「うん！」

そう言って、走りだした途端！！

“ゾンビ！”

一
い
つ
た
あ
い
」

私は、何かにふりかかるでしまった。

痛い！

おもしろい。さすがにほんの少しは、かわいい。

大文天 · 儒者 ·

一一

でも、その大声を出した理由は、すぐに分かつた。

何故かつて？？

だって、私がぶつかつた“人”って輝だつたんだもん！！

一
二
三
四
五

と言つたから立ち上かる糧

て糞をこめんれ おだし 前見てなぐて

「ミツニギミテ、アソシハ、アリマス。」

卷之三

卷之三

は、・、可^ハニ=?

しかも、もう一度ひとつ見ると耳には、ペラスを付けてるし、

は染めてるし、 、 、 。

しかも、制服を思い切り改造している。

今までの輝なら、髪は黒で制服もきちんと着ていてもちろんピアス

なんかしていなかつた。

つてか、思いつきり校則違反だよね？？

私は、しばらく果然としていた。

「、、「、大丈夫？？優衣？？」

ハツ！！

私は、千香の声で我に返つた。

私は、もう一度目の前のやつを見る。

本当に糞なのがなん？？

「あなた、雨宮輝ですか？？」

すると、その日の前の人物は、またまた思いがけない事を言った。

、 、 、 、
え？

第一話　お花畠

キーンゴーンカーンゴーン

終業のチャイムが鳴る。

そのチャイムと同時にみんなそれぞれ家に帰つていいく。

「優衣、帰ろお～」

「うん～。」

「～、～、どしたの？？何かご機嫌ナナメ？」

「だつてえ～」

話は一時間前に戻ります。

「俺？？俺は輝じゃないぜ。俺は雨宮陽。輝の双子の弟。」
え？

「ええ～！？」

輝つて弟いたの！？しかも双子の！！
初耳だよお～。何で話してくれなかつたの～！？、、、つてあたり
まえかッ！！

彼女でもないにのわざわざ話さないよね（涙
「つてか、あんた輝のこと好きなの？？」

ギクッ！～

こいつ、～、鋭いな、～、。

「ふ～ん。図星なわけ？」

「あ、あんたに関係ないじゃない！～」

あたしがそう言つと、雨宮陽はクスッつと笑つた。

「な、なによ！？」

「別に。ただ、～、ねえ。」

そう言つて、あたしの頭のてっぺんから、足のつま先まで、じーっ

と見てきた。

「な、何よ！？釣り合わないとでも言いたいの！？」

「！」答答。

な、な、何なのよ、アイツ！－

そりやああたしだつて、釣り合わないとは思ひけどさあ、普通初対面の人にそこまで言う！－？

あたしが怒りで燃えていると、雨宮陽が口を開いた。

「ま、せいぜい頑張れば？？絶対無理だと思うけど。」

そう言い残すと、雨宮陽はどこかへ行ってしまった。

な、な、何なのよアイツ！－

失礼にも程があるでしょツ！－！

あたしはアイツが去つて行つた方を向いて思いつきアッカンベーをした。

「、ねえ、優衣、アッカンベーをしてると悪いんだけど、遅刻だよ？？」

ヘツ？？

あ、、、

「ああ～～～…………やつぱー、すっかり忘れてた、、、。」

それもこれも、、、、

「アイツのせいだああああ！－！」

、、、といふことなのです。

つてかアイツ本当に輝の弟？？

顔は似てるけど性格全然違うじゃんかあ～！－！

つてか輝の顔して『絶対無理』とか言わると傷つく、、、。

しかも！－さつき分かつたことなんだけど、その雨宮陽とあたしが同じクラスだつたのよ～！－！

もう、まじあり得ない！－！

「はあああ。」

「ため息ついたら幸せ逃げるよ？？」

「いいよ、もう。アイツと同じクラスって時点で幸せ逃げられてるから。」

「はは。確かに。」

『確かに』じゃないよ。

「あッ！…今からカラオケ行かない？？」

カラオケか。

「うーん、、今日はそういう気分じゃないからバス。」

「そつかあ。じゃあ、また今度行こーね！…」

「うん！…ばいばい

そう言って千香と別れた。

ふう。なんか今日はいろんなことがあって疲れたなあ、、、。

あっそうだ！

こういう日は“あそこ”に行つてみよ
あたしはスキップをしながらあそこへ向かった。

「着いたあ！！」

20分でやっと着いた。

「わあ、きれい。」

見渡す限り花、花、花！

そう、わたしが言っていた“あそこ”とは、お花畠のことだったのだ。

小5の時、学校をサボつてプラプラ歩いてたら偶然見つけた。

色々な花が咲いて、あたしは、一目で気に入った。

それからと言うもの、あたしはここを自分の秘密基地にしていた。

もちろん、千香にも教えていない。

あたしは、お花畠の上に寝転がった。

「うへん……気持ちい」

「ここまま寝たいなあ、、、。

あたしがウトウトして始めた頃、「あれ? 本条? ?」と叫び声が聞こえた。

へ?

その声は、、、

「輝! ?」

あたしは勢いよく飛び起きた。

「久しぶり。」

そう言つて二口ツツと笑つ輝。

か、、、カツコイイ。

思わず見とれてしまつ、、、、。

「本条は、よくここに来るの? ?」

「えつ? あつうん! ……じやなくて、うつん。たまごくるだけなの。」

「へえ。そうなんだ。」

「うん。輝は? ?」

「俺? ?俺はよく来るかな。」

「へえ! ! そうなんだ! !」

「おう。俺、花が好きなんだ。花つて見ると落ち着くじやん? ?

それにキレイだし。って、男がこんなこと言つたらキモイかな? ?」

「うつん! ! 全然! ! キモくなんかないよ! ……」

「そう? それならよかつた。じゃ、俺はこの辺で。、、、あつ! !

メアド交換しねえ? ?」

メアド? ?

「うん! ! いいよ! ! じゃあ、赤外線で送るね。」

「おう。」

あたしたちは、メアドを交換し終わった。

「じゃ、またなあ。」

「

そう言つて輝は、手を振りながら去つていった。
ヽヽヽヽ やつぱり、カツコよすぎると、
つてか、メアド交換しちゃつた！－！

幸せはまだ逃げてなかつたみたい、ヽヽヽ。
あたしはしばらく携帯を見つめたままお花畠のなかでボーッと立つ
ていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8330f/>

帰り道

2011年1月3日22時42分発行